

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(砂防) 平成23年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
地域社会が水系砂防効果をより良く理解するための水系土砂動態履歴の解明と支川域からの土砂流出規模・頻度評価, 双方向コミュニケーション型科学的説明手法の提案(研究期間: H23年~H25年)	三重大学 教授 山田 孝	B
<p><研究概要></p> <p>土岐川支川の妻木川流域をモデル流域として, 行政担当者(国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所, 岐阜県, 土岐市)や地域住民リーダー(自治会や地域歴史文化の活動団体(たとえば, 妻木城址の会, 鶴里町誌編纂委員会, 妻木町公民館など))との議論, 個別の調査・研究成果(妻木川流域の数値地形情報データ作成, 明治期から現在に至るまでの土地被覆状況の変化, 砂防堰堤の堆砂実態と土砂流出特性, 山腹斜面の土壌発達と浸透能)などから, 妻木川流域を対象とした双方向コミュニケーション型科学的説明手法のシナリオ案を作成した。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究では、従来型の水系砂防の説明に対して、砂防設備の整備が進み、緑の山に修復された後の水系砂防の課題とその考え方を地域住民の視点で明らかにし、行政と住民相互の双方向コミュニケーション手法について提示されており、これからの維持管理を主体とする新たな砂防の課題に対する行政と地域住民との協働のあり方を構築する手法として、期待できるものである。</p> <p>今回、本手法の住民参加に対する効果の検証について課題が見られた。今後は、今回作成したシナリオに基づく、その効果の評価手法に関して検討を進めて頂きたい。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い